

ひびき

教育目標「なかよく かしこく たくましく」
<めざす姿>認め合い 自分で考え チャレンジする子
多治見市立共栄小学校 R7.11.28

「自分で考え」を合言葉に自ら学ぶ力を高める ー自己調整力を育てるための取組とその成果ー

共栄小校長 加藤 隆史

共栄小学校では、学校教育目標の一つ「かしこく」の具現に向け、今年度は「自分で考え」を合言葉に児童一人一人が自ら学び、考え、行動する力の育成をめざして、授業改善に取り組んでいます。特に、**自己調整力（目標達成に向け、児童が自らの学び方を主体的に計画し、実行し、それを振り返る能力）**を高めることに重点をおき、子どもが自分の学びを振り返り、次のステップに向けて計画的に行動できるように教師がサポートしています。

授業の始めには、学習課題の解決に向け「めざすゴールの姿」を教師が示します。子どもたち一人一人は、自分がどんな学び方をすれば、課題解決ができそうかを選択・決定し学習の計画をたててから追究していきます。仲間と相談しながら取り組む子、自分の力でまず取り組む子、先生にヒントをもらいながら取り組む子と、それぞれが個別最適な学びをしていきます。それと併行し、仲間と考えや解き方をスクランブルやグループで交流する中で、あやふやだったところを確かにしたり、考えをつけ足したりと協働的な学びをしていきます。授業の終わりには振り返りのシートを使って、自らの学びが適切だったかを振り返り、次回からの学習に生かしていきます。

こうした取組を始め、子どもたちは、受け身ではなく自分から進んで課題を解決しようという主体的な姿が多くなりました。また、教師が話す時間より、子どもたちが活動する時間が増えました。また、分からずに困っている仲間を助けたり、仲間へ自分を表現できたりする姿も増えてきました。私たち職員もまだ試行錯誤の日々ですが、確かな手ごたえを感じています。

こうした授業改善を効果的にするためには、ご家庭での支援も重要となってきます。ご家庭でも、**子どもたちが自分で考え、振り返り、次に進む力を育む場**を位置付けていただけるとありがたいです。



「自分で取り組む」「仲間と取り組む」「先生に聞く」と学び方を決め、机列も一様ではなくそれに合わせて変わります。



自分なりの考えを仲間と交流する場では、考えをアウトプットして、考えを広げたり、深めたりして、考えや解決方法を磨きます



自分の学びを「振り返る場」では、メタ認知といって自分の学びを客観的にみて、成果と課題をはっきりさせます。